



ONOKEN

2021年3月期 第3四半期決算説明資料

小野建株式会社

- 1** 2021年3月期3Q連結決算の総括、連結損益計算書、販売管理費
- 2** 連結貸借対照表、セグメント別業績
- 3** 品種別販売状況
- 4** 設備投資
- 5** 株主還元、今期業績予想について

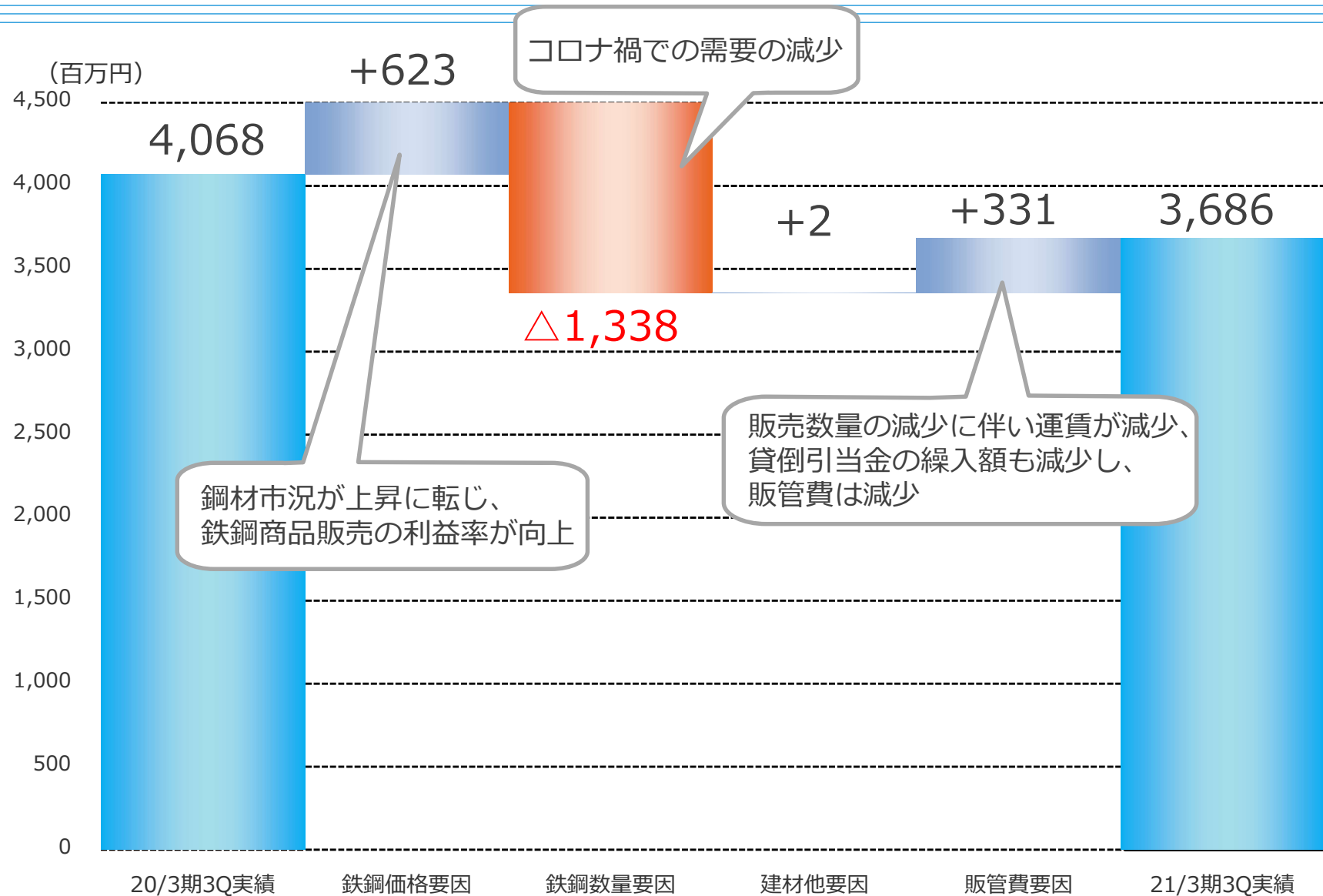
将来の見通しに関する注意事項

資料に記載されている内容につきましては、種々の前提に基づいたものであり、将来の計画数値、施策などに関する記載については、不確定な要素を含んだものであることをご理解ください。

2021年3月期3Q総括 前々期および前期との差異（連結）

	19/3期 3Q実績	20/3期 3Q実績	21/3期 3Q実績	(百万円) 前年同期比	
				増減	増減率
売上高	169,055	167,641	143,534	△24,107	△14.4 %
売上総利益	15,004	14,177	13,464	△713	△5.0 %
営業利益	4,567	4,068	3,686	△382	△9.4 %
経常利益	4,706	4,223	3,870	△353	△8.4 %
親会社株主帰属 当期純利益	3,207	2,820	2,566	△254	△9.0 %

2021年3月期3Q総括 営業利益/前年同期比変化要因（連結） **ONOKEN**



損益計算書（連結）

(百万円)

	19/3期 3Q実績	20/3期 3Q実績	21/3期 3Q実績	前年同期比 増減率	20/3期 通期実績	21/3期 通期計画	前期比 増減率
売上高	169,055	167,641	143,534	△14.4 %	229,290	200,776	△12.4 %
売上原価	154,051	153,463	130,070	△15.2 %	209,601	181,507	△13.4 %
売上総利益	15,004	14,177	13,464	△5.0 %	19,688	19,269	△2.1 %
販売費及び一般管理費	10,436	10,109	9,778	△3.3 %	13,328	13,212	△0.9 %
営業利益	4,567	4,068	3,686	△9.4 %	6,360	6,057	△4.8 %
営業外収益	207	241	245	+1.7 %	341	303	△11.1 %
営業外費用	69	86	61	△29.1 %	174	80	△54.0 %
経常利益	4,706	4,223	3,870	△8.4 %	6,527	6,280	△3.8 %
特別利益	207	14	21	+50.0 %	14	153	+992.9%
特別損失	1	83	29	△65.1 %	117	29	△75.2 %
税引前当期純利益	4,912	4,154	3,862	△7.0 %	6,424	6,251	△2.7 %
法人税等事業税	1,704	1,334	1,284	△3.7 %	2,008	1,968	△2.0 %
親会社株主当期純利益	3,207	2,820	2,566	△9.0 %	4,416	4,306	△2.5 %

販売管理費（連結）

(百万円)

	19/3期 3Q実績	20/3期 3Q実績	21/3期 3Q実績	前年同期比 増減率	20/3期 通期実績	21/3期 通期計画	前期比 増減率
販売費及び一般管理費	10,436	10,109	9,778	△3.3 %	13,328	13,212	△0.9 %
運賃	3,248	3,271	2,983	△8.8 %	4,401	4,016	△8.7 %
貸倒引当金繰入額	753	27	△53	—	16	△53	—
人件費	3,461	3,644	3,537	△2.9 %	4,671	4,735	+1.4 %
租税公課	343	373	354	△5.1 %	485	502	+3.5 %
減価償却費	954	994	1,225	+23.2 %	1,357	1,687	+24.3 %
その他	1,677	1,800	1,732	△3.8 %	2,398	2,325	△3.0 %
売上原価内の減価償却	428	389	365	△6.2 %	474	508	+7.2 %

- ・ 販売数量の減少に伴う運賃の減少
- ・ 前期発生した貸倒引当金繰入額の戻入
- ・ 加工設備増強、南福岡営業所新設および三重営業所拡大移転による減価償却費の増加

貸借対照表（連結）

※主要項目のみ記載しております	19/3期 実績	20/3期 実績	21/3期 3Q実績	増減額	増減率(百万円)
流動資産	108,673	100,013	96,902	△3,111	△3.1 %
現金及び預金	5,725	5,292	6,011	+719	+13.6 %
受取手形及び売掛金・電子記録債権	72,424	62,791	55,222	△7,569	△12.1 %
商品及び製品、原材料及び貯蔵品	24,722	21,411	17,064	△4,347	△20.3 %
前渡金	5,769	10,382	18,483	+8,101	+78.0 %
固定資産	49,944	53,584	56,681	+3,097	+5.8 %
有形固定資産	47,908	50,911	54,022	+3,111	+6.1 %
資産合計	158,618	153,598	153,583	△15	△0.0 %
流動負債	88,051	75,628	74,511	△1,117	△1.5 %
支払手形及び買掛金・電子記録債務	45,411	41,766	39,030	△2,736	△6.6 %
短期借入金	35,951	22,250	17,550	△4,700	△21.1 %
前受金	2,834	6,170	14,113	+7,943	+128.7 %
固定負債	2,034	7,809	7,185	△624	△8.0 %
社債	—	6,029	6,024	△5	△0.1 %
長期借入金	287	34	—	—	—
負債合計	90,086	83,437	81,696	△1,741	△2.1 %
株主資本	68,191	70,077	71,509	+1,432	+2.0 %
純資産合計	68,531	70,160	71,887	+1,727	+2.5 %
負債・純資産合計	158,618	153,598	153,583	△15	△0.0 %

セグメント別業績推移(連結)

(百万円)

		19/3期 3Q実績	20/3期 3Q実績	21/3期 3Q実績	20/3期 通期実績	※21/3期 通期計画
九州・中国 エリア	売上	91,744	97,386	84,483	137,075	126,014
	営業利益	2,984	2,693	2,504	4,392	4,602
関西・中京 エリア	売上	43,101	39,063	31,846	51,289	45,005
	営業利益	1,015	712	636	1,077	979
関東・東北 エリア	売上	34,209	31,190	27,205	40,924	36,311
	営業利益	572	594	499	818	712

売上高は「外部顧客への売上高」を記載

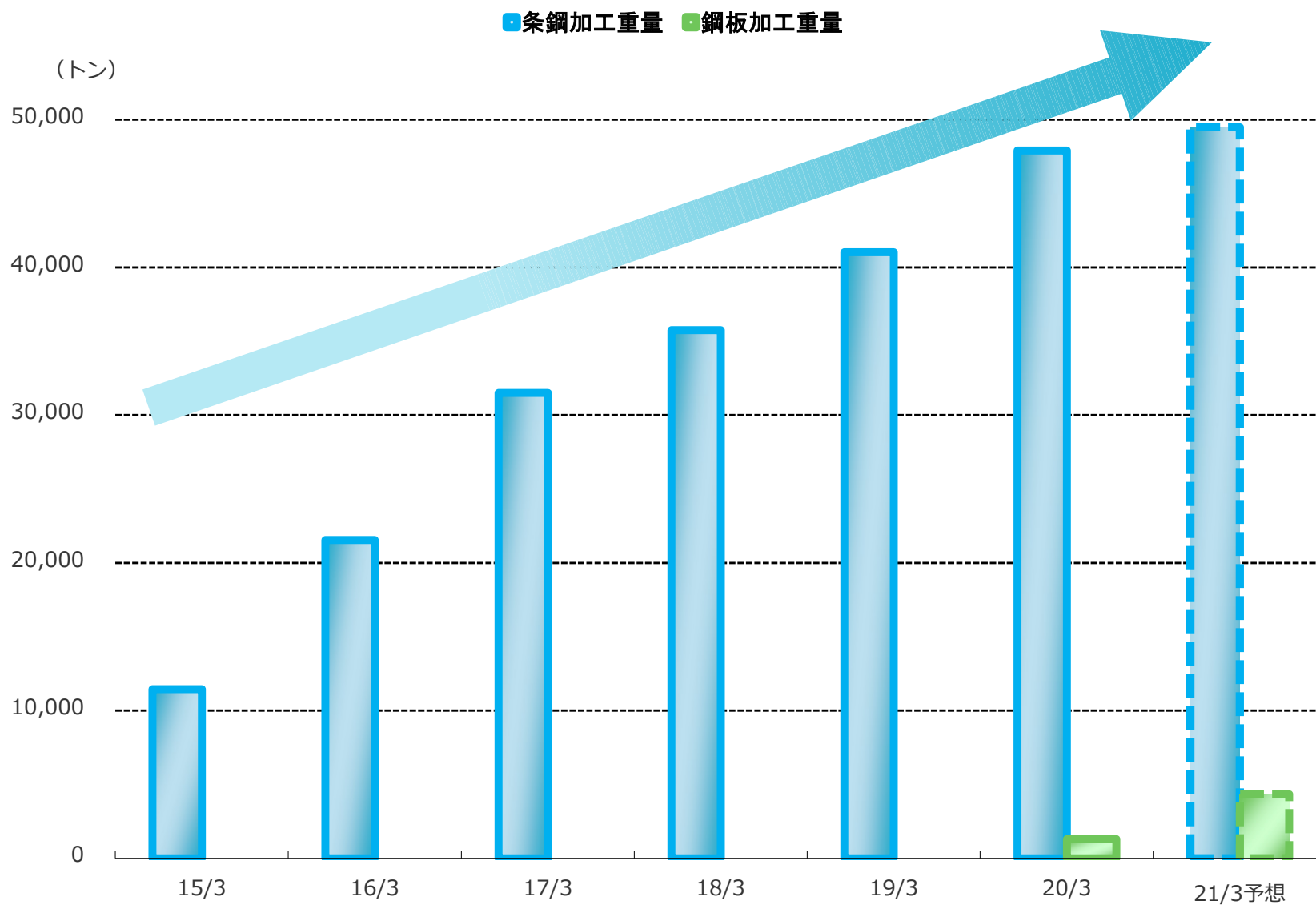
※通期計画は連結消去なしで記載の為参考値

品種別販売状況（小野建単体）

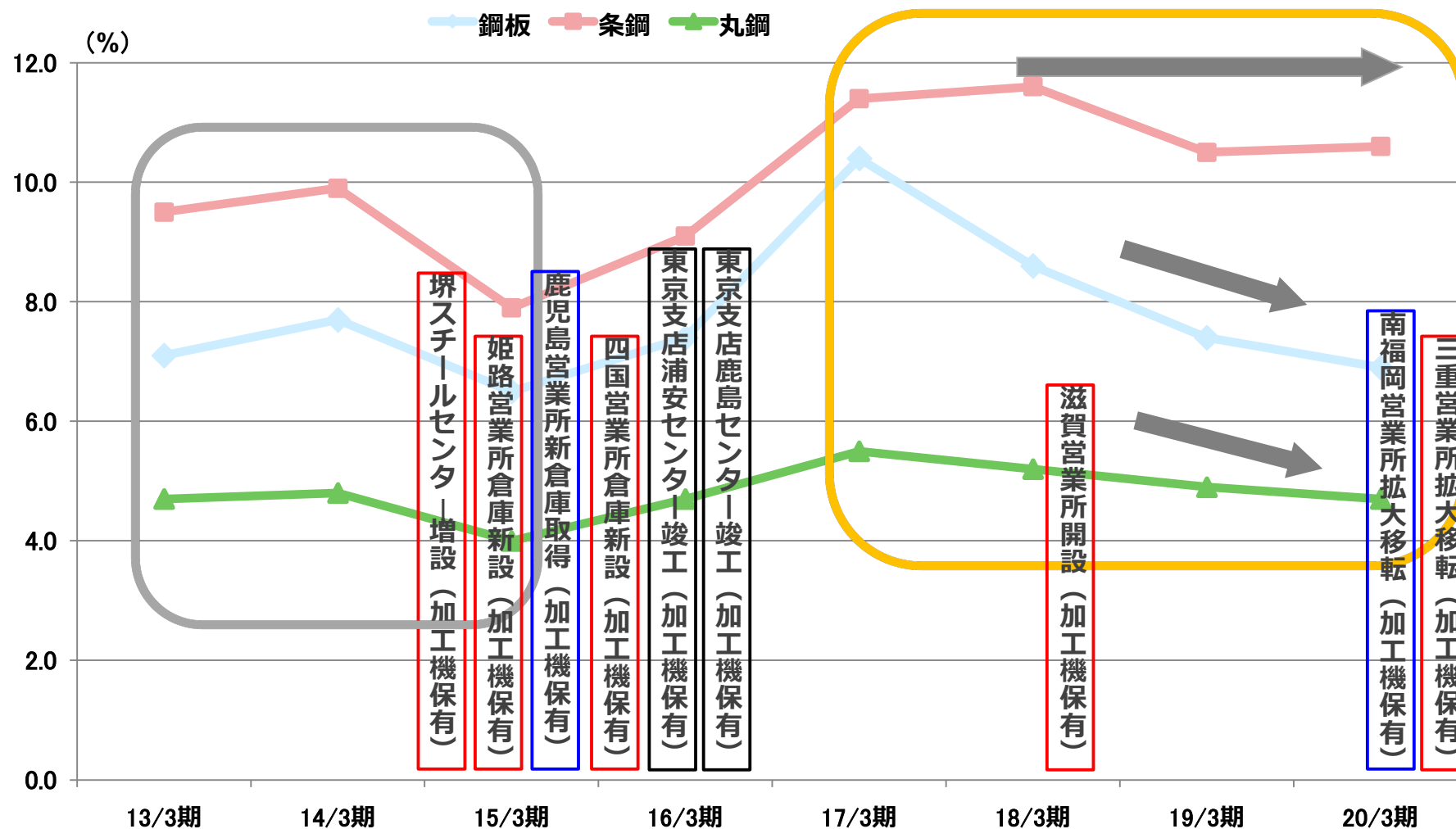
（百万円・千トン・% 単価は円/Kg）

		19/3期 3Q実績		20/3期 3Q実績		21/3期 3Q実績		前年同期比 増減率	21/3期 通期計画		前期比 増減率
鉄鋼商品販売事業	鋼板類売上	41,313		41,989		33,102		△21.2 %	43,400		△19.8%
	販売数量・単価	479	86.25	499	84.15	431	76.80	△13.6 %	557	77.92	△14.4%
	売上総利益	3,181		2,824		3,105		+10.0 %	4,355		+16.1%
	利益率	7.7		6.7		9.4		+2.7 P	10.0		+3.1P
	条鋼類売上	59,291		57,409		46,356		△19.3 %	61,876		△16.9%
	販売数量・単価	584	101.53	545	105.34	485	95.58	△11.0 %	646	95.78	△9.1%
	売上総利益	6,294		5,969		5,307		△11.1 %	7,449		△6.0%
	利益率	10.6		10.4		11.4		+1.0 %	12.0		+1.4P
	丸鋼類売上	21,948		22,554		16,916		△25.0 %	22,883		△20.6%
	販売数量・単価	301	72.92	302	74.68	248	68.21	△17.9 %	332	68.92	△14.7%
	売上総利益	1,084		1,026		929		△9.5 %	1,260		△7.2%
	利益率	4.9		4.5		5.5		+1.0 P	5.5		+0.8P
小計	売上高	122,552		121,952		96,374		△21.0 %	128,159		△18.6%
	販売数量・単価	1,364	89.85	1,346	90.60	1,164	82.80	△13.5 %	1,535	83.49	△12.3%
	売上総利益	10,559		9,819		9,341		△4.9 %	13,064		+0.2%
	利益率	8.6		8.1		9.7		+1.6 P	10.2		+1.9P

自社での一次加工重量の推移



品種別利益率推移



一次加工比率の向上により条鋼類の収益率が向上しかつ安定化

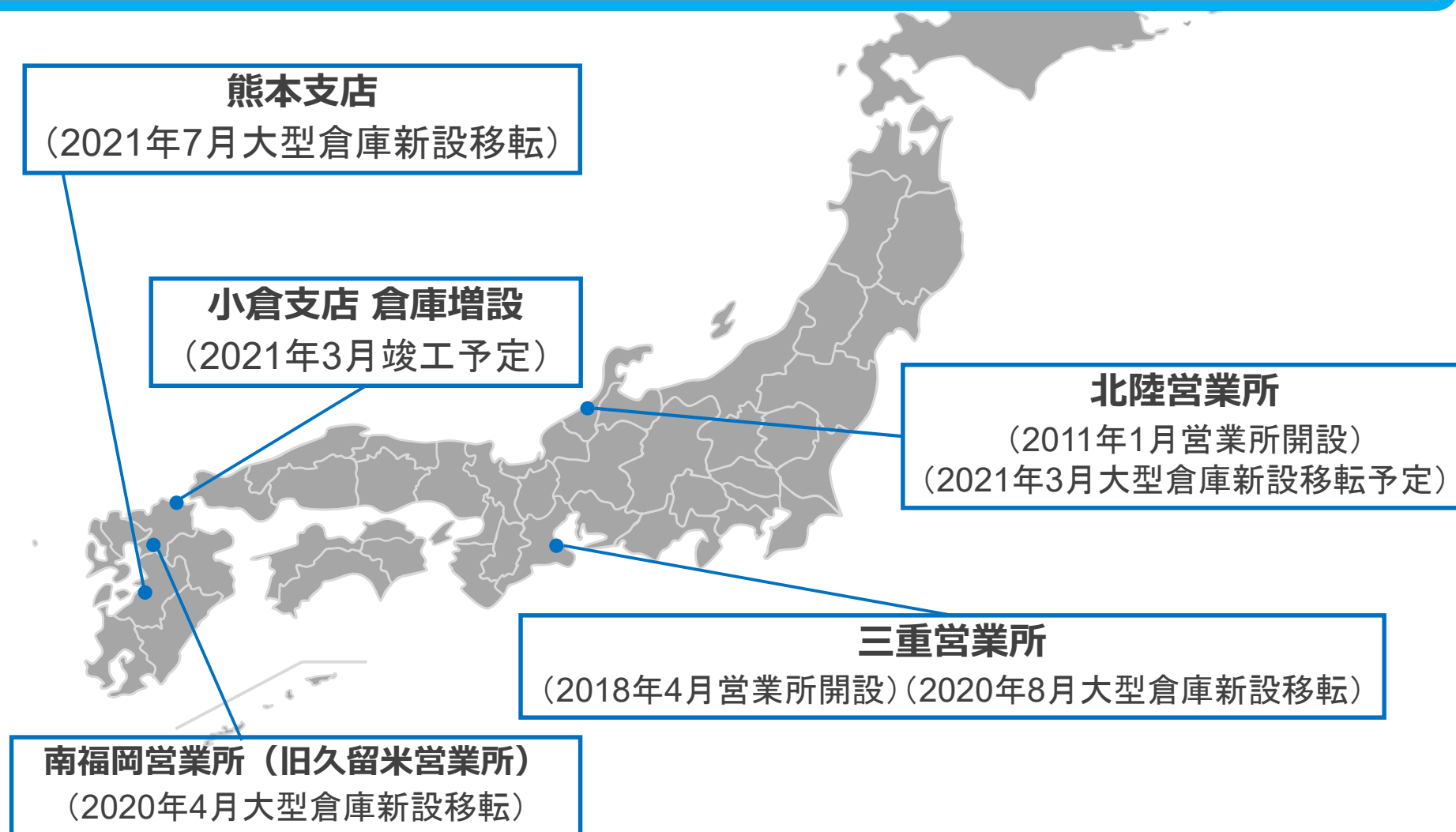
品種別販売状況（小野建単体）

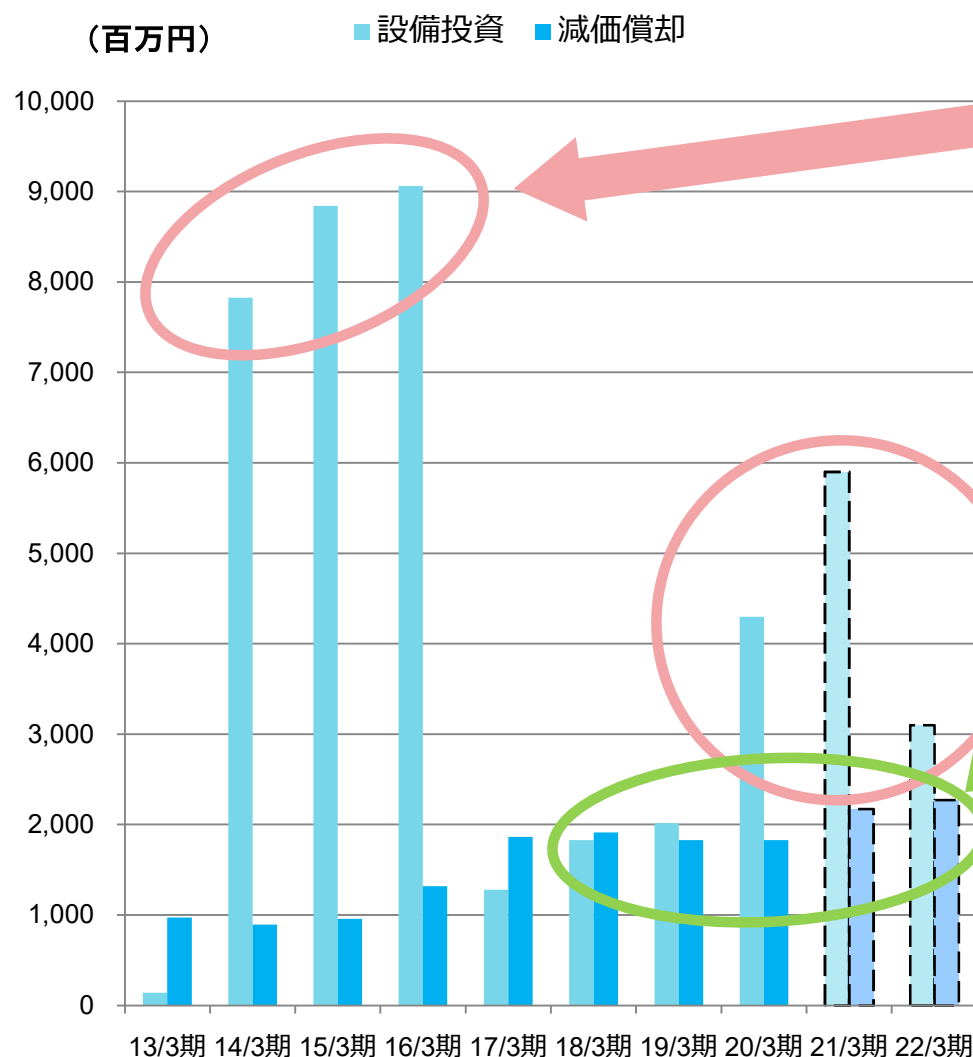
（百万円）

		19/3期 3Q実績	20/3期 3Q実績	21/3期 3Q実績	前年同期比 増減率	21/3期 通期計画	前期比 増減率
販売事業 建材商品	建設機材商品売上	10,776	10,978	11,113	+1.2 %	15,064	△4.5%
	売上総利益	538	519	499	△3.9 %	684	△7.3%
	利益率	5.0	4.7	4.5	△0.2 P	4.5	△0.2P
工事事業 工事請負	建設機材工事売上	27,028	22,758	24,916	+9.5 %	42,608	+4.8%
	売上総利益	1,820	1,889	1,817	△3.8 %	3,068	△4.1%
	利益率	6.7	8.3	7.3	△1.0 P	7.2	△0.7P
不動産賃貸 等事業	その他事業収入	547	548	520	△5.1 %	688	△5.8%
	売上総利益	340	355	340	△4.2 %	445	△7.1%
合計	売上高	160,903	156,236	132,923	△14.9 %	186,519	△13.1%
	売上総利益	13,257	12,582	11,997	△4.6 %	17,261	△1.1%

直近開設済み拠点並びに今後開設予定の物流センター

中長期的に各地域に根差し、地域と共に発展する全国ネットワーク企業を目指す





・ 今後10年を見据えて3年間で約260億円の設備投資を実施

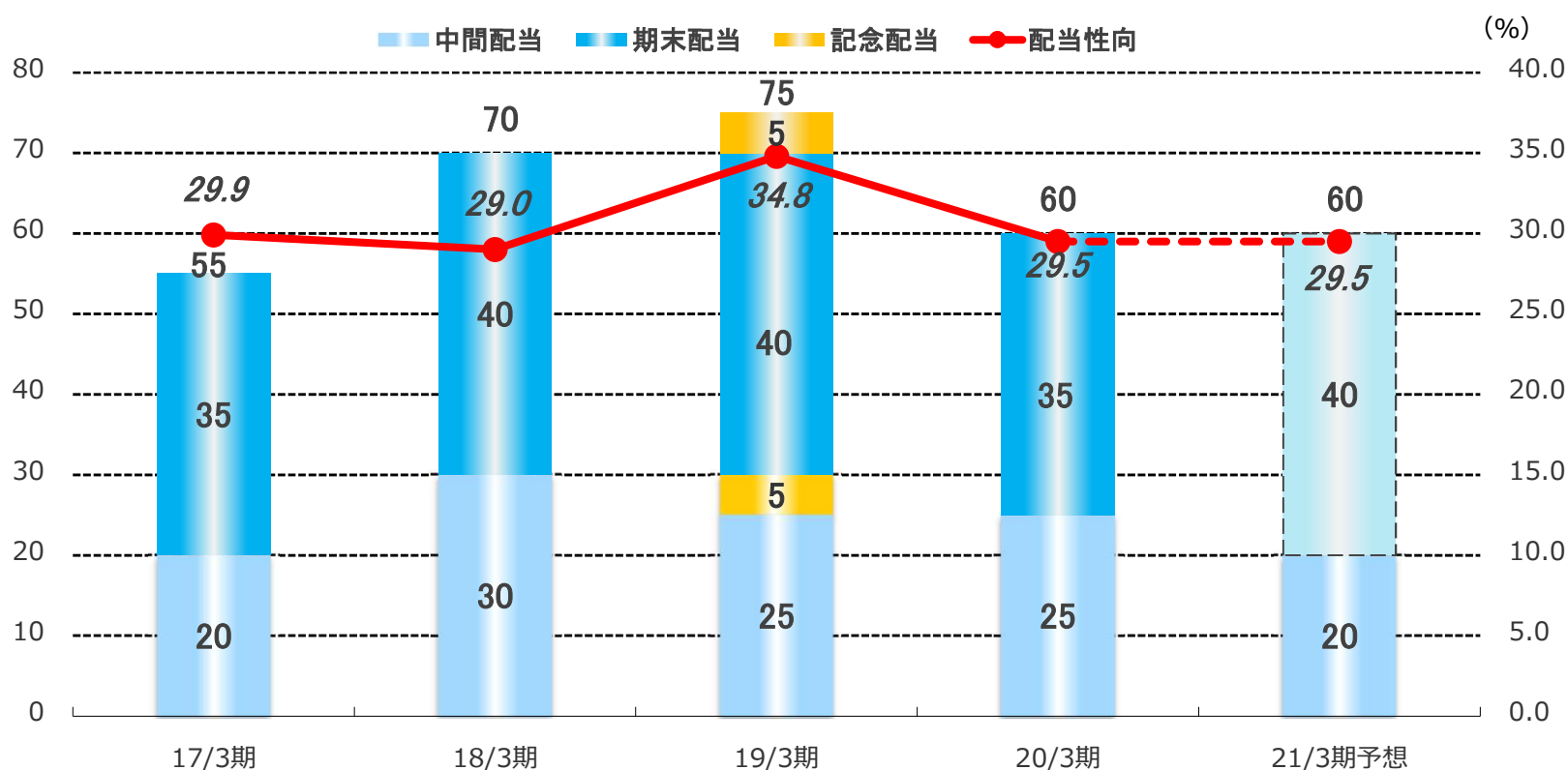
・ 16/3期で一段落したものの近年加工設備拡充のための設備投資金額が増加傾向

・ 減価償却費はほぼ横ばいで推移する予定



**加工設備の充実による
安定的な収益向上**

業績連動ながら連結配当性向30%を基本に安定かつ 高い水準の利益還元を継続



◆環境

- ・ コロナ禍での経済活動は徐々に回復しており、需要も増加傾向となっている
ただし、今後もコロナの影響は予断を許さない
- ・ 中国の景気回復並びにスクラップ等の原材料価格の高騰により、メーカー主導の中で鉄鋼市況は強含みの状況となっており、特に輸入価格の上昇は顕著で国内市況を上回り、輸入は低調に推移している

◆業績予想前提

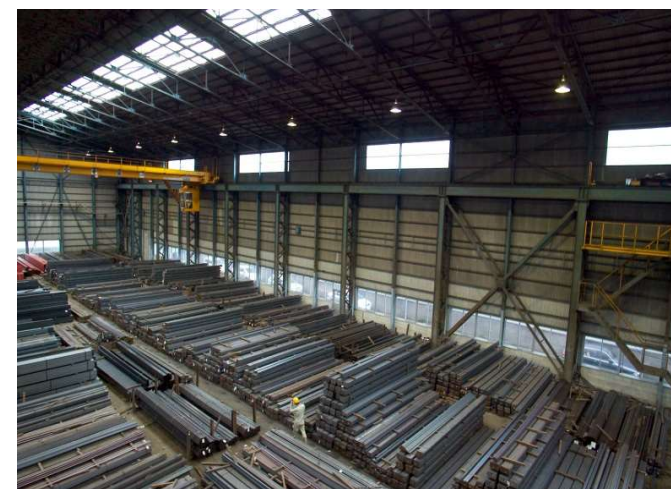
- ・ 需要の回復による鉄鋼商品販売数量の増加
- ・ 鉄鋼市況が第2Qから強含みで推移しており、在庫出荷分を中心に利益率の向上
- ・ 工事請負事業における完成工事の増加
(来期以降も物流センターなどの施設関連や再開発物件が継続
ただし、中小型案件の着工見送り懸念は残る)



商号	小野建株式会社
設立	1949年8月
代表者	小野 建
資本金	42億9,980万円
連結売上高	2,292億9,000万円
従業員	793 人(連結)
上場取引所	東京①・福岡(7414)
本社	福岡県北九州市
業種	鉄鋼・建材流通商社
主な事業内容	鋼材の販売・加工 土木建築材料の販売 土木建築工事の請負



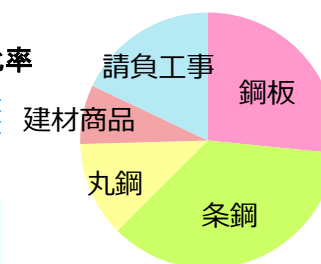
小野建株式会社本社 小倉支店



小倉支店 倉庫内
(2020年9月30日現在)

取扱品種

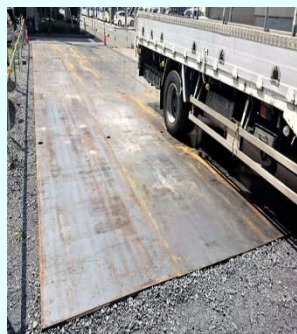
売上比率



鉄鋼商品

鋼板

鉄を板状にしたもの
工事現場の敷板等に使われる



条鋼

型鋼とも呼ばれ、色々な形に
成形したもの
建物の骨組等に使われる



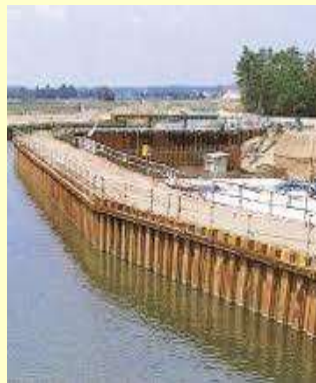
丸鋼

鉄を丸い棒状にしたもの
建物の基礎等に使われる



建材商品

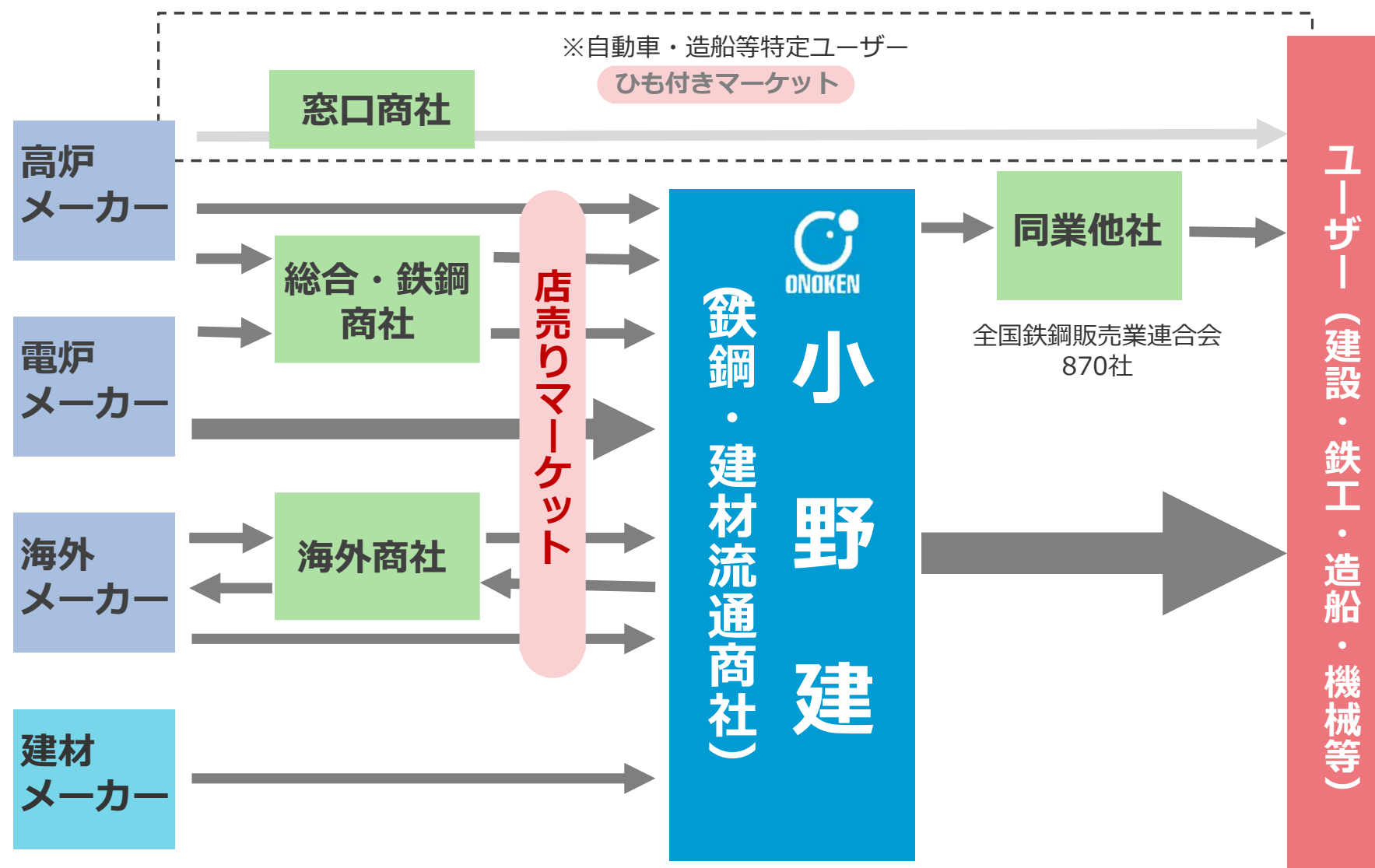
土木・建築工事に
使用される材料
鋼矢板・屋根・
フェンス・サッシ
等
写真はフェンス、
鋼矢板



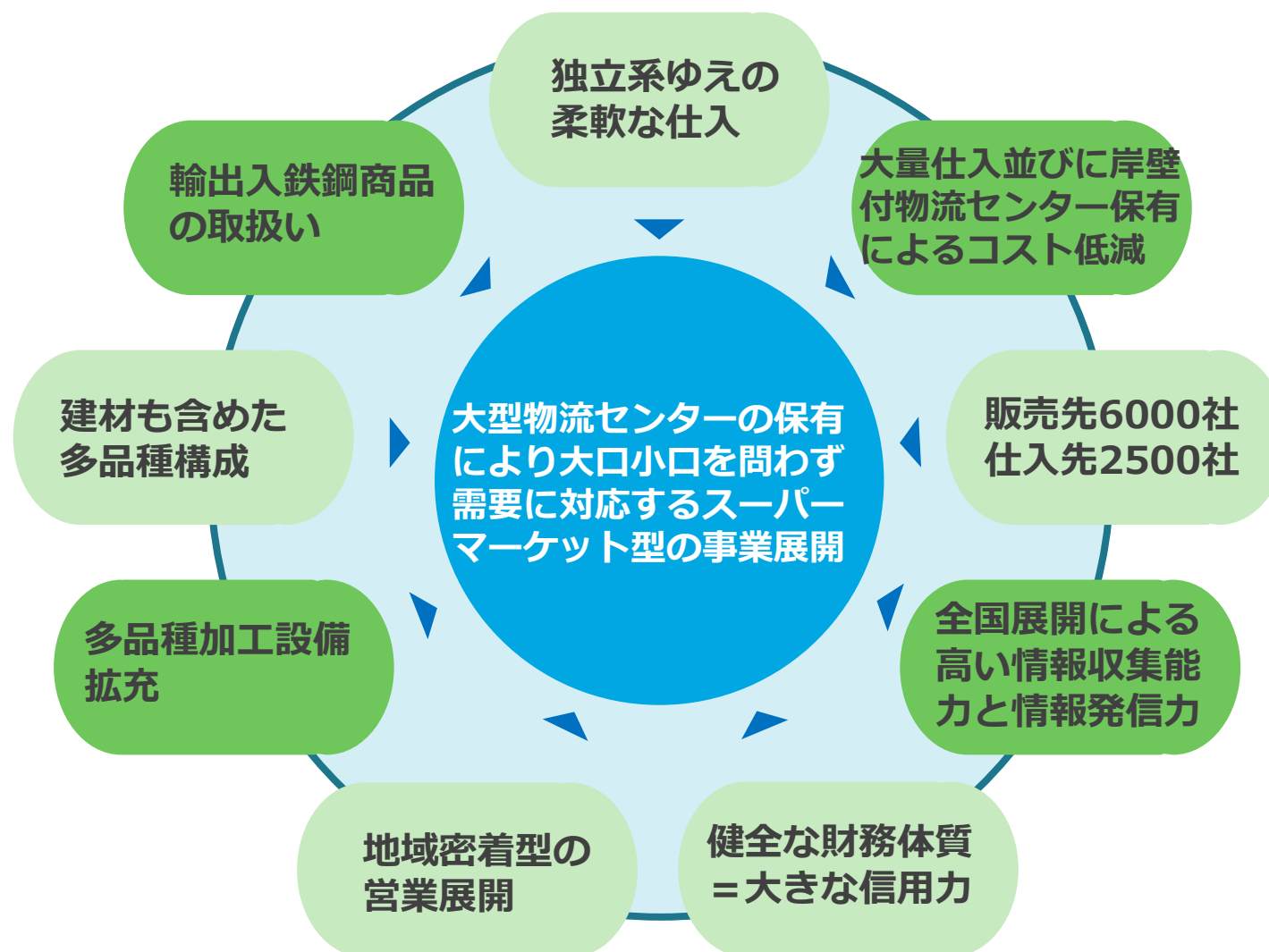
工事請負

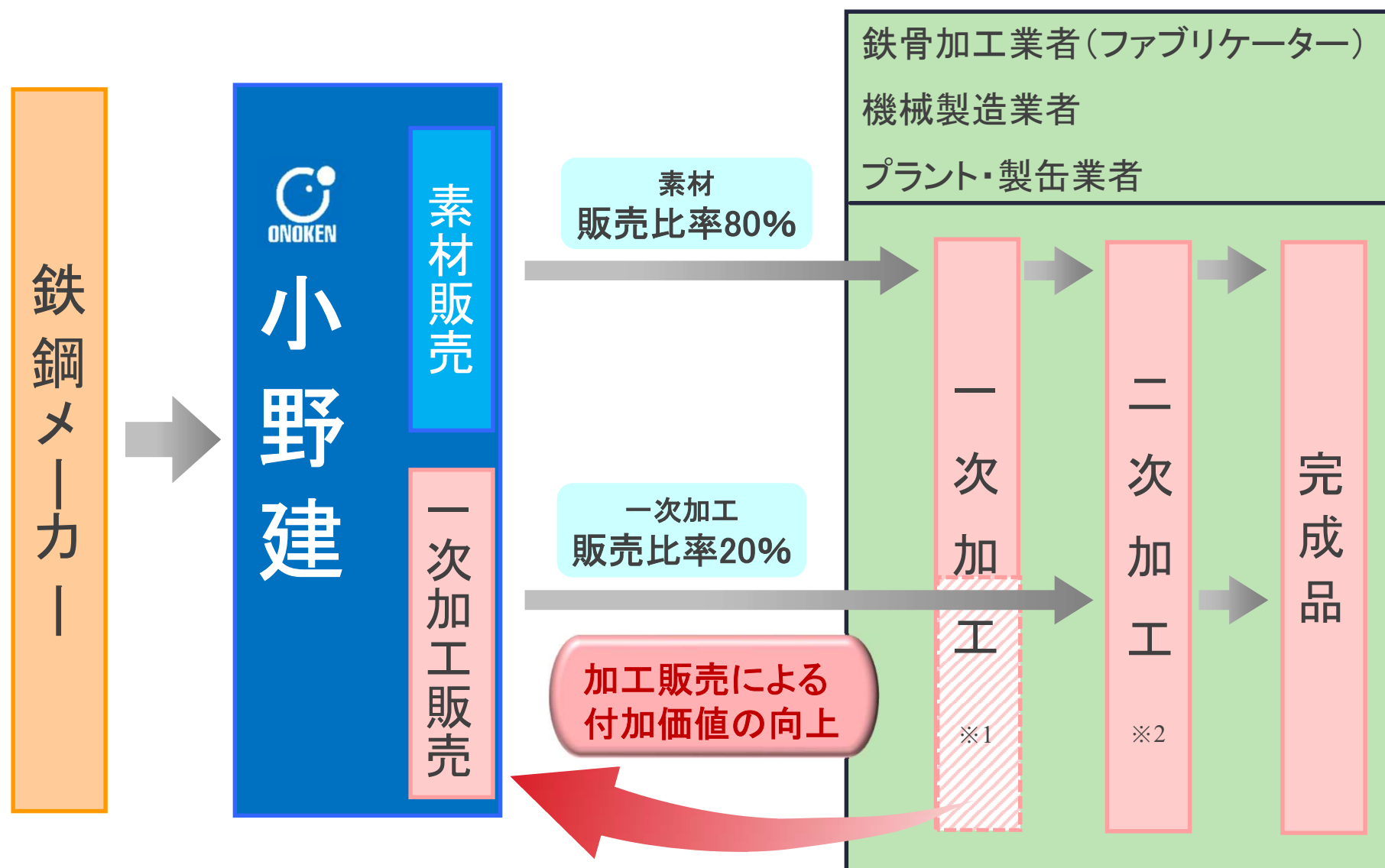
鉄骨工事
屋根工事
外壁工事
サッシ工事
杭工事 など





物流センターを活用した「鉄と建材のスーパーマーケット」





※1一次加工・・・素材を販売ニーズに合わせ、切断・穴あけ等の加工

※2二次加工・・・一次加工品に組立・溶接・塗装等の加工

付加価値向上により鉄鋼市況の影響を受けにくい商品の取扱拡大

加工前の
H形鋼

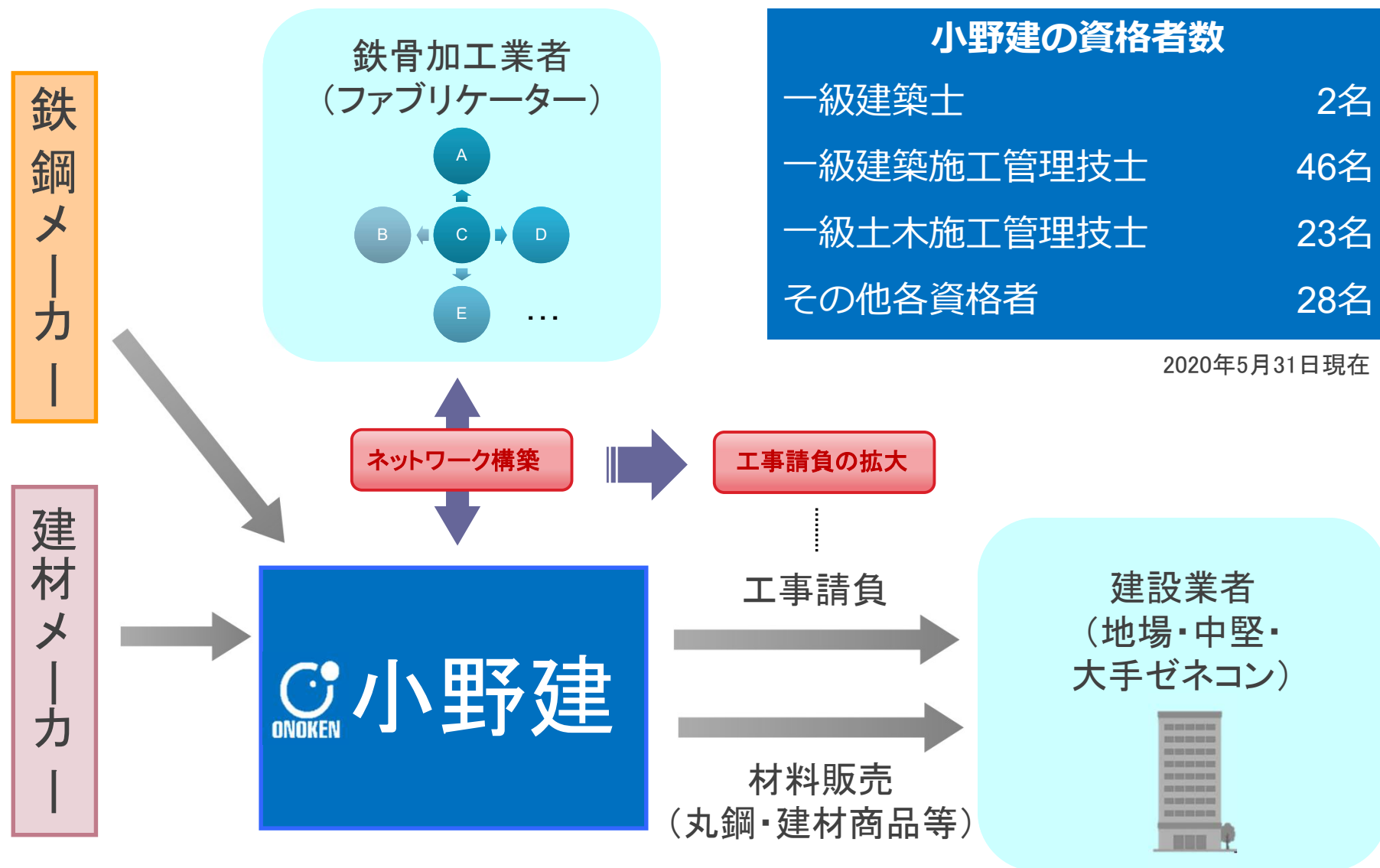


加工機にて
切断・穴あけ



加工後の
(切断・穴あけ後)
完成品



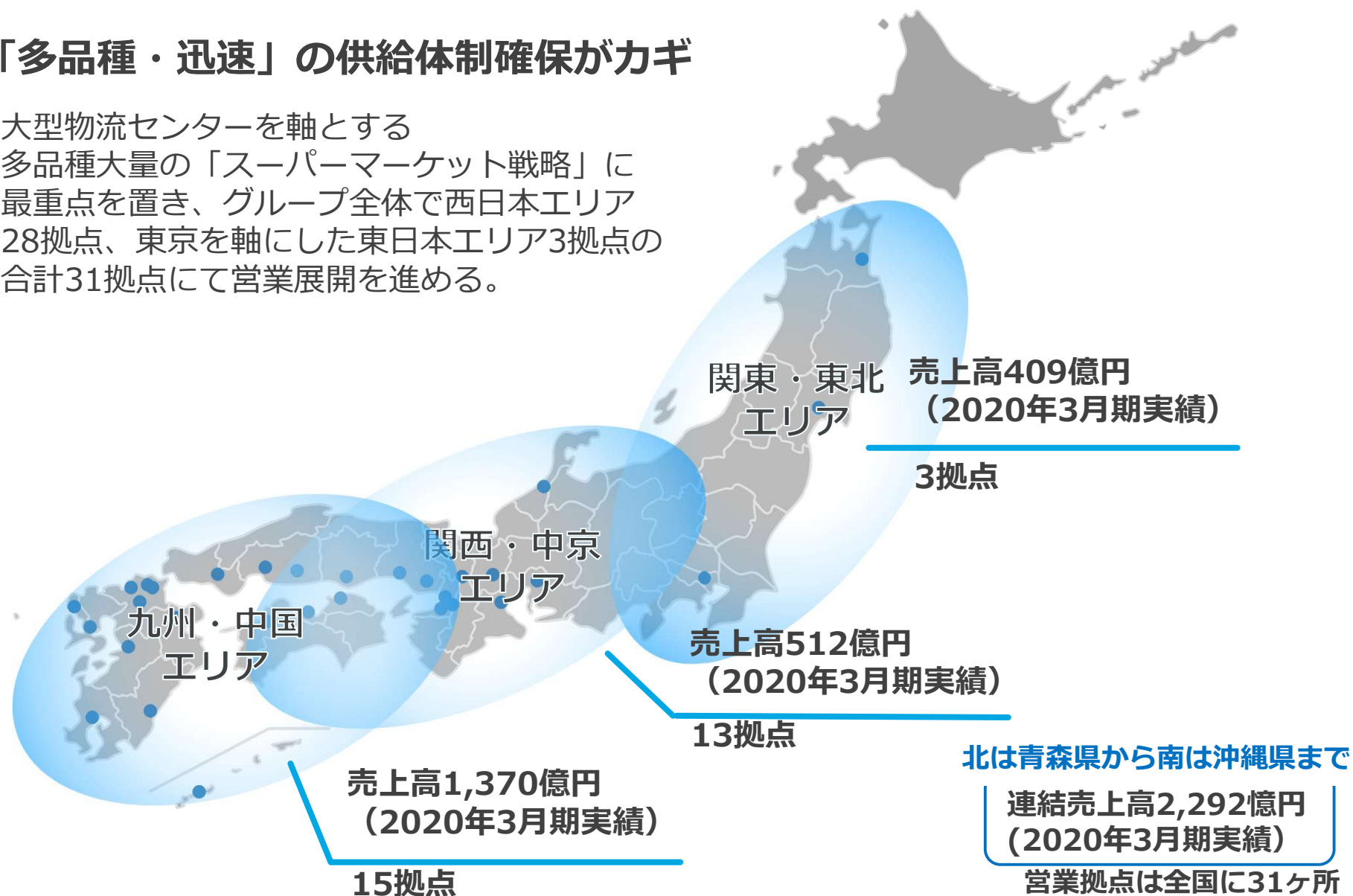


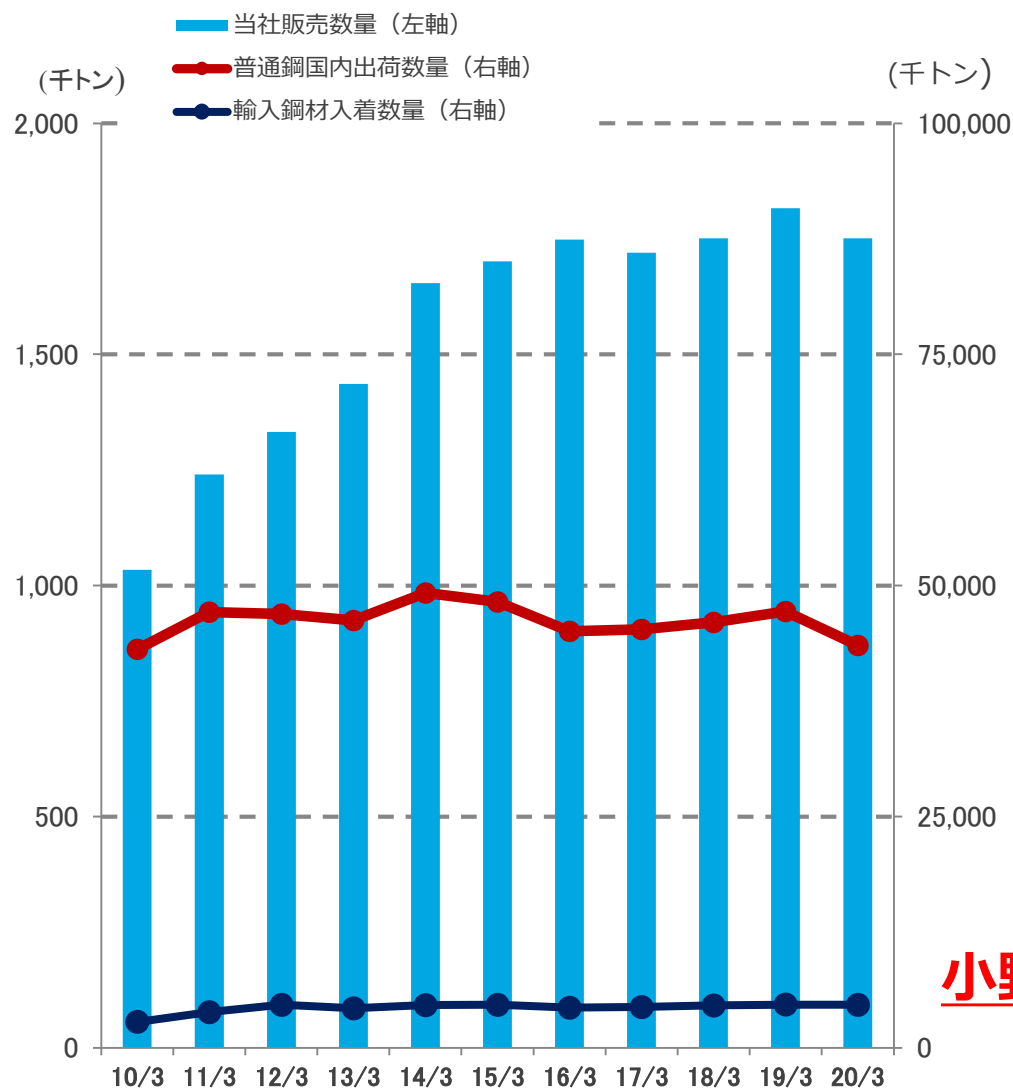
2020年5月31日現在

全国にネットワークを展開

「多品種・迅速」の供給体制確保がカギ

大型物流センターを軸とする
多品種大量の「スーパーマーケット戦略」に
最重点を置き、グループ全体で西日本エリア
28拠点、東京を軸にした東日本エリア3拠点の
合計31拠点にて営業展開を進める。





※日本鉄鋼連盟資料より当社作成

市場との比較

- 普通鋼国内出荷数量は、近年横ばいの傾向にある中、当社の販売数量は順調に増加
- 全国と同業者約700社の中でトップシェアながら現在3%程度
今後もエリアを拡大し、販売数量を伸ばす

今後人口減少等により市場は縮小していくことが予想されるが、

小野建の強みを活かして勝ち残りへ

● 付加価値の向上の為、加工設備の拡充と物流センター新設の促進

- 加工商品販売に注力し、今後販売比率を高め、他社との差別化と収益率アップを目指す
- 付加価値を高め市況の変動に左右されにくい、安定した収益体制を目指す

● 工事請負の拡大

- 鉄骨加工業者とのネットワーク構築の推進
- 施工管理者の育成強化
- 技術集団(職人等)の育成強化



同業他社との差別化と収益向上を目指す